

## 第54回 日本リハビリテーション医学会学術集会印象記

2017年6月8日～10日の3日間、岡山コンベンションセンターをはじめとする6カ所の会場で開催された第54回日本リハビリテーション医学会学術集会に参加しました。

1日目は吉村芳弘先生によるサルコペニアについての教育講演を拝聴しました。近年さまざまな診断基準が提唱されてきており、研究も進んでいるサルコペニアについて、概念から原因、診断方法についてのお話を伺いました。低活動や低栄養、疾患などの原因がある二次性のサルコペニアについては、いかにしてその原因に対処するかが重要だと痛感しました。特に低栄養はサルコペニアとの合併率も高く、適切な栄養管理をした上でリハを行うことが効果的なADL、筋肉量の改善に繋がるということがわかりました。午後にもロコモティブシンドロームやサルコペニアについてのシンポジウムを拝聴し、この分野の研究がとても盛り上がっていることを実感しました。



2日目は坂爪一幸先生による高次脳機能障害・発達障害のある子供の就学・復学支援についての教育講演を拝聴しました。医療者側の疾患理解ももちろん大切ですが、その特性を直接関わっていく教育現場にどう伝えていくかが非常に難しいのが現状です。医療現場・家庭・教育現場の情報共有をすすめ、そのような子供と家族に適切な支援を行える環境を作っていくことが必要不可欠だと感じました。



3日目は痙縮のボツリヌス治療のハンズオンセミナーに参加しました。実臨床の現場でも諸先生方に打ち方を教えていただいておりますが、改めて投与部位の同定方法について学ぶことができました。

今年からは専門医会に変わり秋季学術集会も始まります。今回はスタッフになって初めての学会だったこともあり、まず教育講演などを中心に拝聴していましたが、私自身も発表する立場になることを認識して幅広く学んでいこうと思います。

横浜市立大学付属病院 リハビリテーション科 立花佳枝